

2025 年 6 月 23 日

～子どもたちの自然体験を創出し、未来に向けた逞しい人材の育成につながる活動～
第 37 回『全国児童 自然体験絵画コンテスト』開催のご案内

公益財団法人ヤマハ発動機スポーツ振興財団(Yamaha Motor Foundation for Sports)は、小学生以下の児童・幼児を対象とした第 37 回「全国児童 自然体験絵画コンテスト」を開催します。テーマは「今年の夏、海や川、山など、自然の中で体験したこと」とし、2025 年 6 月 23 日(月)～9 月 12 日(金)の期間で作品を募集します。今回は「文部科学大臣賞」「国土交通大臣賞」「環境大臣賞」「農林水産大臣賞」など入賞 24 点をはじめ、合計 300 点を選出します。

平成元年(1989 年)にスタートしたこの自然体験絵画コンテストは、子どもたちが創作活動をきっかけに自然の中に出かけ、そこで身体を動かす楽しさを感じ、自然の魅力に触れ好奇心が育まれることで、逞しい人材の育成につながる体験の連鎖を築いていくことを目的に実施してきました。

子どもたちがより身近な場所で多様な体験を継続できるよう、一昨年から従来の「水辺」だけでなく「自然」へとテーマを拡大して実施しています。今年の夏、子どもたちが実際に自然の中で体験、発見したことを生き生きと描いた元気な作品の応募をお待ちしています。

応募期間 : 2025年6月23日(月)～9月12日(金) ※消印有効
最終審査会 : 2025年10月23日(木) (東京都千代田区 御茶ノ水ソラシティカンファレンスセンター)
結果発表 : 2025年11月6日(木) (当財団ホームページおよび書面にて)

国広 富之 審査員長のコメント

毎年たくさんの素晴らしい絵の応募がありますが、自然の中で体験し、その絵を描くということは、本当に幼い頃にしかできない体験になってきています。自分の手で、自分の感情を表現するという絵画は子どもにとって、ひじょうに大事なことです。今後、ますますデジタルが盛んになっていくと思いますが、子どもの頃の体験を、筆を持って描くことをこの先 5 年、10 年とぜひ続けて欲しいと思っています。

自然体験とは、自然の中で、自然を活用して行う体験です。

例) 海水浴、シュノーケリング、川遊び、釣り、漁業体験、潮干狩り、地引網、乗船体験(ボート、カヤック等)、キャンプ、ハイキング、登山、虫とり、農業体験(田植え、野菜作り等)など。

※ 特別な体験に限らず、身近にある自然の中で体験したことも含みます。

■作品の応募先・コンテストについてのお問い合わせ先

〒437-1117 静岡県袋井市松原2455-2 第37回「全国児童 自然体験絵画コンテスト」係 Tel. 0538-23-8700

■コンテスト主催団体: 公益財団法人ヤマハ発動機スポーツ振興財団 担当: 濱北

www.ymfs.jp

公益財団法人 ヤマハ発動機スポーツ振興財団 (YMFS)

〒438-8501 静岡県磐田市新貝 2500
TEL: 0538-32-9827 FAX: 0538-32-1112

Yamaha Motor Foundation for Sports (YMFS)

2500 Shingai, Iwata, Shizuoka, 438-8501 Japan
Tel: +81 538 32 9827 Fax: +81 538 32 1112

《コンテスト概要》

対象	小学生および幼児
テーマ	今年の夏、海や川、山など、自然の中で体験したこと
応募期間	2025年6月23日(月)～9月12日(金) ※消印有効
応募規定	・四つ切サイズ(54cm×38cm)の紙に描いてください。 ・画材(水彩・パステル・クレヨン・色鉛筆・版画等)は自由、砂や貝などの貼付は審査の対象外です。 ・1人1点とし、応募者本人が描いた未発表作品に限ります。 ・絵画に限らず、他の作品の模倣・酷似と認められる作品は、受賞決定後であっても賞を取り消します。 ・応募用紙の記載に不備があった場合や、応募用紙をA4サイズから拡大・縮小した場合は審査の対象外です。 ・募集締切り日(消印有効)以降に届いた場合は受付しません。 ・作品発送時の事故・破損についての責任は負いかねます。ご注意ください。 ・応募作品は返却いたしません。
応募方法	・応募用紙は、別添応募用紙、または、当財団ホームページよりダウンロードしたものを使用(A4サイズ)。 ・応募用紙は、コピーして利用できます(規定のA4サイズから拡大・縮小コピーは不可)。 ・応募用紙に必要事項を記入の上、作品裏面右下に貼付し、下記の応募宛先に郵便または宅配便にて送付。
応募宛先	〒437-1117 静岡県袋井市松原2455-2 第37回「全国児童 自然体験絵画コンテスト」係 Tel. 0538-23-8700 (お問合せ受付時間:2025年6～12月の9:00～12:30、13:30～17:00 土日を除く)
審査方法	国広富之審査員長をはじめとする、画家、後援各省・団体の審査員によって厳正に審査
審査日程	2025年10月23日(木)
結果発表	2025 年 11 月 6 日(木) 当財団ホームページにて発表 https://www.ymfs.jp/
賞典	●入賞 24点 最優秀賞(4点) 文部科学大臣賞、国土交通大臣賞、環境大臣賞、農林水産大臣賞 特別賞(11点) 審査員長賞、日本マリン事業協会会長賞、日本ユネスコ協会連盟賞 日本マリーナ・ビーチ協会会長賞、ジャパングームフィッシュ協会会長賞 国立青少年教育振興機構理事長賞、日本海洋レジャー安全・振興協会会長賞 ヤマハ発動機賞、YMFS特別賞(3点) 優秀賞(9点) 幼児部門 :金・銀・銅賞(各1点) 小学校低学年部門 :金・銀・銅賞(各1点) 小学校高学年部門 :金・銀・銅賞(各1点) ●秀作 126点 ※1次・2次審査通過作品 ●佳作 150点 ※1次審査通過作品

※コンテストの詳細につきましては、当財団ホームページをご覧ください。

<https://www.ymfs.jp/contest/>

自然体験によって得る感性、絵画を描くための観察眼

理論物理学者として著名なアルバート・アインシュタインは、体験の重要性について「何かを学ぶためには、自分で体験する以上に良い方法はない」と述べています。海の自然体験を伊豆七島の三宅島で実践した J.T. モイヤー博士は、「自然環境に目を向けることを重視し、生徒個々人が直接フィールドに出て、自ら発見することを基本とする」プログラムを通して、本物の自然に触れる直接体験の重要性を説明しました。

文部科学省は、「体験活動とは、自分の身体を通して実地に経験する活動のことであり、子どもたちがいわば身体全体で対象に働きかけ、かかわっていく活動のことであり、今後の教育において重視されなければならないのは、ヒト・モノや実社会に実際に触れ、かかわり合う直接体験である」として、社会奉仕体験や自然体験を充実させる必要性を述べています。

自然体験では、家から外に出ることによって、家の中とは異なった空気や暑さ寒さ、あるいは気持ちの良さなどのさまざまな感情が伴います。まずは、身近な山や川、海や湖などに出かけてさまざまな体験をすることによって、少しでも普段と違った目線から自然を感じて絵画を描くことで、自然への親しみや関心が高まるのではないのでしょうか。

子どもたちが自然体験を通して得た発見や感動を絵画にしていくプロセスには、自然環境に触れる、自然環境をよく観察する、どのように表現したら良いか考える、絵画を完成させる行動を通して達成感を得る、といった子どもの成長にも関わる基盤的な教育的要素が含まれています。また、自然環境と自分自身の関係を考える、はじめの一步となる刺激を得る可能性があります。

公益財団法人ヤマハ発動機スポーツ振興財団の「全国児童 自然体験絵画コンテスト」を活用いただくことによる自然体験の充実や子どもたちの絵画を通じた表現力の涵養を期待します。



千足 耕一

東京海洋大学 学術研究院 教授

公益財団法人ヤマハ発動機スポーツ振興財団 理事